

# ポスターのデザイン術<sup>120pt</sup> ver.3

神戸大学附属中等教育学校 NN回生 山本拓弥

60pt

## ①ポスター作成の準備

見通しを持って作業を効率化

### A 研究内容の整理

あなたの研究の構造は？



根拠はいくつ？ 根拠の関係は？  
同じ重要さ？ 並列？段階的？

あなたの研究の面白い所は？

あなたにとって思い入れがあることは？

テーマに選んだ〜〜が好きだ！  
〜〜の方法を工夫した！  
〜〜の結果が意外だ！

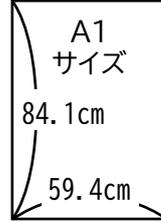


他の人にとって意義が伝わることは？

〜〜が解決できる  
〜〜の役に立つ  
〜〜ができるようになる

### B デザインの基本設計

ポスターサイズを設定



パワーポイントの場合  
「デザイン」  
→「スライドのサイズ」  
→「ユーザー設定のスライドのサイズ」  
スライドのサイズ指定で  
『ユーザー設定』 A1サイズなら  
幅を『59.4 cm』、高さを『84.1 cm』

使用フォント / サイズ

タイトルはゴシック体 研究タイトル 60~120pt  
メイリオ 游ゴシック 項目タイトル 40~60pt  
BIZ UDゴシック 本文 30~40pt  
本文は明朝体  
游明朝 BIZ UD明朝

使う色のルール

テーマカラー ● タイトル ● 基本文字色  
強調文字色 ● 事前に配色決定 ● 背景色

この4色を決めると統一感が出る

## ①レイアウトを決める

レイアウトは最初に伝わる情報

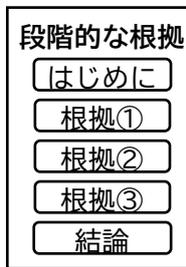
### A 伝わりやすいレイアウト B レイアウトの例

研究の論理構造と対応

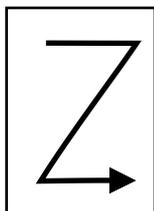
研究の流れは  
レイアウトでも伝えられる

伝えたいところが目立つ

思い入れ/意義を  
最初に目につくところに



Z型の視線移動



ポスターは  
最初に上  
その中で左  
から読まれる

流れを主張



結論重視



2つの比較



配置を工夫



# 要約

内容面での検討

研究内容の整理

**構造・面白さ**

を明確化

構造と面白さを伝えるために

ポスターの作成

- ①レイアウトを決める
- ②まとまりを視覚化する
- ③メリハリをつける
- ④映えるテクニック

大枠で全体の印象を決める

美は細部に宿る

## ②まとまりを視覚化する

ひと目で伝わるように

### ダメな例

続けて書く

× タイトルA  
本文A本文A  
本文A本文A  
タイトルB  
本文B本文B  
本文B本文B

### A 内容のかたまり

枠で囲む

○ タイトルA  
本文A本文A  
本文A本文A  
タイトルB  
本文B本文B  
本文B本文B

間隔

○ タイトルA  
本文A本文A  
本文A本文A  
タイトルB  
本文B本文B  
本文B本文B

### B 階層構造

インデント

○ タイトルA  
本文A本文A  
本文A本文A  
タイトルB  
本文B本文B  
本文B本文B

タイトルを目立たせる

○ タイトルA  
本文A本文A  
本文A本文A  
タイトルB  
本文B本文B  
本文B本文B

○ タイトルA  
本文A本文A  
本文A本文A  
タイトルB  
本文B本文B  
本文B本文B

## ③メリハリをつける

普通の文と強調文の差が重要

### A アピールポイントを目立たせる

○ 太字

背景色

×

下線

枠囲み

文字色

白抜き

**全部乗せ**

※最大で3要素程度

ナナメ サイズ大

### B 目立たせる情報は絞る

× 大事 重要

根幹 肝要

大切 肝心

どれに注目？

○ 大事 重要

根幹 肝要

大切 肝心

これに注目！

## ④映えるテクニック

細かな工夫を積み重ねると、劇的な違いが

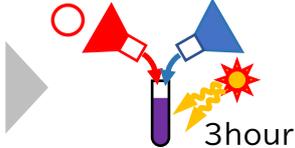
文字を減らす

× ~~~~することができると考えられる

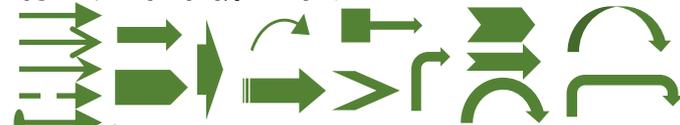
○ ~~~~可能

イラストの活用

× 赤色の溶液と青色の溶液を試験管に混ぜ合わせた上で、3時間直射日光にさらす。



多様な矢印・図形の利用



図表の活用

× Aの値は50で、同様にBは15、Cは40であった。

A	50
B	15
C	40



枠線の色を消す

×

○

余白を作る

× 余白は大事

○ 余白は大事

ラインを揃える

×

○   
※「整列」機能が便利

グレーの活用

△ A ▶ B △ A ▶ B

○ A ▶ B 他の色を邪魔しない  
このポスターでも多用